

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271800454		
法人名	医療法人 仁寿会		
事業所名	グループホームかわもと「あいあいの家」		
所在地	島根県邑智郡川本町川本376-4, 376-7 (電話) 0855-72-2950		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟町		
訪問調査日	平成19年12月18日	評価確定日	平成20年2月4日

## 【情報提供票より】(19年11月30日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 3 人, 非常勤 人, 常勤換算 7, 9	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	2 階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2	要介護2	6
要介護3	1	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 88, 7歳	最低 79 歳	最高 97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	加藤病院・仁寿かわもと診療所・原田歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の住宅地の中にあり、家庭的な雰囲気のあるホームである。周囲には、公共施設・病院・郵便局・学校・商店などがある。利用者が外に出る生活を大切に、一日に2回買い物に出かけたり散歩などの支援をしている。地域行事に積極的に参加し地域との交流を大切にしている。地域の理解・協力・支援も得られている。創設当初より地域に密着したホーム作りを理念に掲げ、さらにサービスの質の向上を目指し日々奮闘している。
--

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ①介護計画の見直し ②夕食後の入浴支援、が課題としてあげられていた。①は、センター方式を取り入れることによって、1ヶ月に1回見直しが行われるようになった。②についても、希望者があれば可能な体制が作られ改善がみられた。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員会議や、定例会、ミニ勉強会などで全職員の意見を聞きながら取り組んできた。意欲的に問題点に取り組む改善の検討が行われている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 諸行事、外部評価報告、防災関係のほか、ホームの概況などを討議されている。参加者から意見を頂くほか、地域の方々からも自分たちが出来る協力、支援について申し出もあった。また、行政側の協力もあり意見が運営に活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 日ごろの面会時に意見・要望を聞くようにしたり、遠方にいる家族も多いのでアンケート調査を実施している。意見は職員会議などで話し合い運営に反映されている。家族会はあるが家族の負担が大きいことから現在は活動していない。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会、商店、保育所などと連携し各種行事や敬老会等へ参加している。「在宅親子のふれあい」などでは、世代を越えた交流もある。「外に出る生活を大切にする」という積極的な姿勢で、地域での日常生活に溶け込んでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時から地域の中でのグループホーム作りを目指し「地域との出会い、人との出会い、ケアとの出会い」を理念として掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティング、引継ぎのときの申し送り等で、「みんなで一緒に、ゆとりを持って、ゆっくりと」を職員の共通の合言葉として確認しあっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「あいあいの家」便りを自治会にも回覧していただいている。「物忘れ相談室」を開設し、地域に対しても広報活動が行われている。ご近所の美容院や喫茶店に遊びに行くなど日常的に交流が行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、時間をかけて全職員で行った。外部評価の結果を、職員会議や運営推進会議で話し合い、それをもとにさらなる質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。行政、自治会の方も参加して、ホームでの状況、外部評価報告、防災関係等が議論され、助言や要望は運営に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「かわもと夢と元気創造プロジェクト推進委員会」に参加し情報交換を行っている。市のボランティア養成サポートと連携を取りボランティアの受け入れを検討中である。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「あいあい便り」に合わせて、利用者1人1人の活動状況を手書きで送っている。預かり金についても決算報告を郵送している。	○	今後、さらなるサービスの質の向上のために、記録物を開示するなど積極的な情報開示に取り組んでいただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や、アンケートを実施して積極的に意見・要望を聞くように努めている。家族会は、設立時に作ったが遠方の人も多く負担になるとの意見で、今のところ休止状態である。	○	さらに、家族同士の交流の仕方を工夫されることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの関係が保たれるよう、法人の同じ部門内での異動を行うように工夫している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で人材育成を目的とした人事評価制度が作られていて、個別面談指導により、個々の能力向上に合わせて資格取得への支援がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員が山陰認知症ケア研究会、小規模ケア連絡会に参加している。また、町内3グループで交流会を設けて参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	受け入れに当たり、入居まで2週間をかけて、本人、家族に見学をしてもらい、自宅へ面接に出かけて行くなど、時間をかけてゆっくりと入居へと繋げている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑づくり、花の育て方や料理の方法など、利用者の豊かな知恵や経験を教えてもらったりしながら、職員と共に支えあいながらの生活がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中から、本人の思いや意向を把握するよう心がけている。新しい発見については、随時個別ファイルに追加記入されケアに活かされている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見・要望を確認しながら、センター方式を取り入れ、より細かいところまで情報収集し、介護計画に活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別の介護シートが作られており1ヶ月ごとに見直しがなされている。日々の記録、連絡帳などに細かい部分まで書き込んである。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現況の中で本人、家族の要望に応じて、外泊、外出など柔軟に対応している。	○	デイサービスを申請中なので、今後もよりよいサービスを提供できるような場所になることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅療養支援診療所の訪問診療を利用して応診がおこなわれている。必要なときには、かかりつけ医の受診が行われ、安心して医療が受けられるように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応・終末期ケア対応の指針が作られており、それに基づいて家族、主治医、職員の相談で今後の方針が決定されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全体に対して、日々倫理規定について徹底がはかられている。言葉かけや対応などについては適切な指導が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決められた日程表はない。出来ること、出来ないことを見極め「手を出すな、目を離すな」を合言葉に、本人のペースにあわせ安全を第一に自信のもてる生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決め、買物、準備、片付けまで職員と一緒にに行い、買物については午前、午後とあり楽しみにされている。季節感のある食事作りがなされ、職員とともに和やかな食事場面である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができ、夜間の入浴体制が確保されている。入浴の嫌いな人も医師の指導と協力や職員のタイミングのよい声かけの工夫で支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「今を大切に、この一瞬を楽しめるように」との気持ちで、好きな事、得意な部分を大切に、主役になれる場面作りが行われている。書道では、作品展に出品し、賞をいただいた。入選された家族はもちろんホームも盛り上がった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前・午後の買物、散歩、喫茶店でのコーヒーなど本人の要望に応じて柔軟に外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠し、昼間は開いていて自由に入入りができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成されており、年2回、防災訓練が実施されている。自治会との協力体制や、近隣、利用者の家族からの支援協力の申し出もあり環境整備が出来つつある。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別フィルにて食事、水分摂取量が把握されており入居者の状態や体調に合わせて支援されている。法人の栄養士の指導も行われている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中央にアイランド型キッチンがおかれ全体が見渡せる。明るくて広々とした空間作りがなされており、プランターには花が植えられ季節感が漂っている。浴室、トイレも清潔で十分な広さもあり使いやすくなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具が持ち込まれており、壁には写真や自分の作品が飾ってあり、個々の状態にあわせた使いやすい居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。